

平成28年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立西与賀小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。これは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図ることが目的です。学校においては、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることやこれらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善を確立することを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成28年4月19日(火)

■ 調査の対象学年

小学校6年生

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、算数A〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、算数B〕
<ul style="list-style-type: none">身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容実生活において不可欠であり常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取り組みや人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

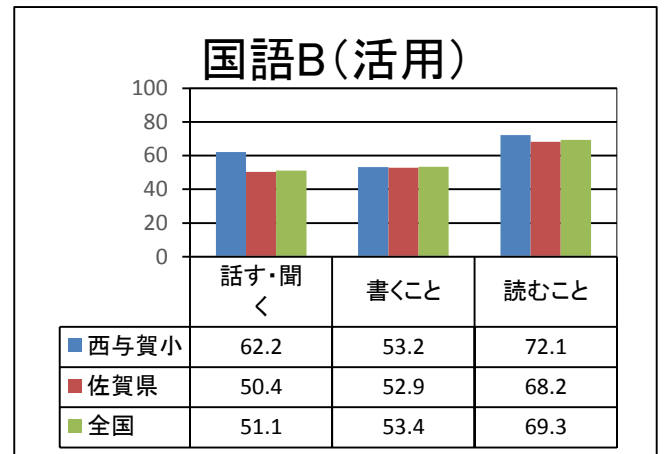
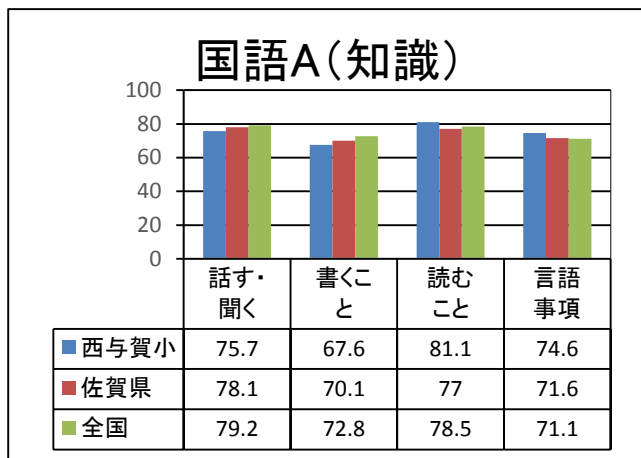
■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語

(1) 結果(西与賀小正答率、佐賀県正答率、全国正答率との比較)



国語 A は「読むこと」「言語事項」の 2 つの領域で全国平均を上回っているが、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の 2 つの領域は全国平均を下回った。

国語 B は「話すこと・聞くこと」「読むこと」の 2 つの領域で全国平均を上回った。

(2) 成果と課題

話す・聞く

・国語 B で、意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問を考える問題の正答率が高かった。

書く

・国語 A では、目的や意図に応じて書く事柄を適切に整理する問題の正答率が低かった。国語 B ではグラフをもとに分かったことを的確に書く問題の正答率が高かった。

読む

・国語 A では、登場人物の人物像について、複数の叙述をもとに捉える問題の正答率が高かった。国語 B では、目的に応じて文章の内容をつかみ、自分の考えを明確にしながら答える問題の正答率が低かった。

言語事項

・国語 A で、漢字の書きの問題は、どれも正答率が高かった。ローマ字で表記する問題で正答率の低いものがあった。

(3) 学力向上のための取組

【学校では】

○読み取ったことについて自分の考えを書く学習を低学年から積み重ねていくことで、目的や意図に応じて自分の考えを書く力をつけていきます。

○スキルタイムなどで語句の役割や語句相互の関係について理解を深めたり、前学年の言語事項もふり返ったりしながら、基礎的な言葉の知識を身に付けさせていきます。

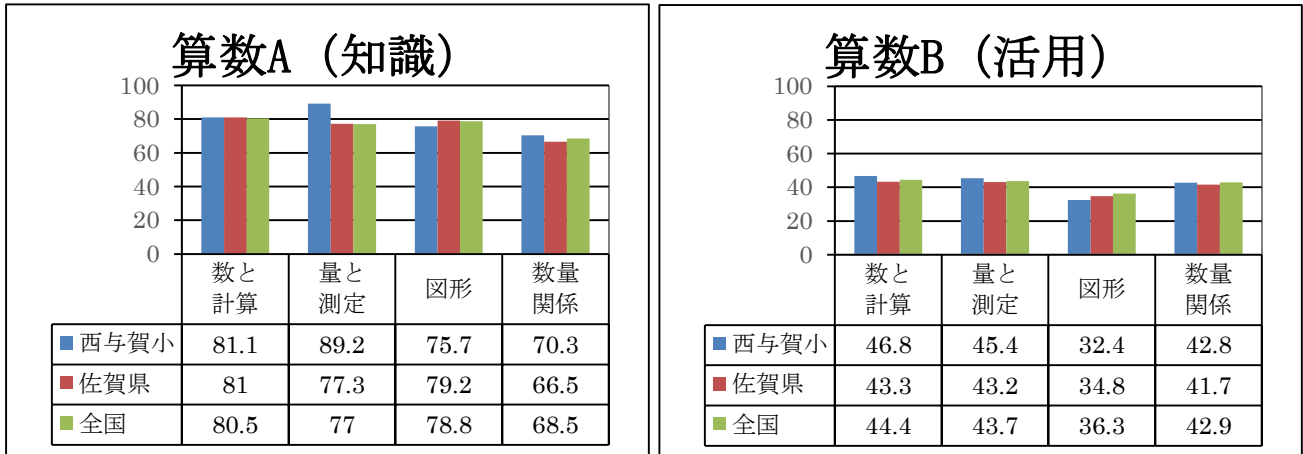
【ご家庭では】

○音読が学習の基本です。繰り返し音読することで言葉のまとまりや文と文のつながりを理解できるようになりますので、ぜひ聞いてくださるようお願いします。

○親子で本を読み、様々な言葉や表現にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。親子で図書館に足を運んでいただくのもいい方法です。

2 算数

(1) 結果(西与賀小正答率、佐賀県正答率、全国正答率との比較)



算数 A も算数 B も全体としては全国平均を上回った。算数 A では「図形」領域が、算数 B では「図形」領域と「数量関係」領域が全国平均を下回った。

(2) 成果と課題

数と計算

・算数 A では、全国の正答率と同程度であった。算数 B では、長方形の中に決められた数の正方形がかかる理由を説明する問題の正答率が全国より高かった。

量と測定

・算数 A では、どの問題も全国より正答率が高く、特に単位量あたりの大きさを求める問題は 17.2 ポイントも高かった。算数 B では、示された説明を解釈し、用いられている考えを別の場面に適用して、その説明を記述する問題の正答率が全国に比べて高かった。

図形

・算数 A では、直方体における面と面の位置関係についての問題の正答率が全国より低かった。算数 B では、どの問題も全国より正答率が低かった。

数量関係

・算数 A では、全国より高い正答率だった。算数 B では、全国の正答率と同程度であったが、示された表を読み取り、判断できないものを選ぶ問題の正答率が全国より低かった。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

○ICT を活用し、導入や見通しを持たせる時間を短くすることで、問題について考えたり、話し合ったりする時間を十分にとる工夫をしています。

○スキルタイムやすすすくテスト、宿題の内容を工夫し、練習量を確保することで、基礎・基本の着実な習得を図ります。

【ご家庭では】

○ノートや宿題、テストなどに目を通していただくことで、つまづきを見つけられます。復習を行い、自分の力を発揮できるよう励ましの言葉かけをお願いします。

○身の回りの数や形、資料やグラフなどを話題として取り上げるよう心がけてくださると幸いです。日常の事象について、学んだ算数をもとにして考える力を高めることができます。

3 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べている。	81.1	87.3
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	18.9	38.2
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか？	43.2	57.4
平日 2 時間以上テレビを見る。	64.8	57.1
平日 2 時間以上ゲームをする。(TV ゲーム・パソコン・携帯型等も含む)	37.8	29.7
平日読書を 30 分以上している。	40.5	36.5
平日読書は全くしない～10 分未満。	37.8	36.5

平日の読書時間を30分以上している児童の割合は全国より高く、読書習慣がついている児童が比較的多い。就寝については全国平均よりかなり下回っており、「早寝・早起き」の生活リズムは今後も継続して指導していく必要がある。また、ゲームの時間が長い傾向が見られ、平日でも3、4時間している児童の割合が全国よりも少し高い。ゲームの時間は、早寝・早起きとも深く関わる点でもあり、生活リズムを整えることとあわせて家庭での時間の使い方の指導に取り組むようにしていきたい。

《家庭学習の様子について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
平日 2 時間以上勉強している。	48.6	62.5
平日 1～2 時間勉強している。	37.8	25.4
平日 0～1 時間勉強している。	8.1	8.9
家で、学校の宿題をしている。(どちらかといえばしているも含む)	100	97.0
家で、授業の予習をしている。(どちらかといえばしているも含む)	56.7	43.3
家で、授業の復習をしている。(どちらかといえばしているも含む)	64.9	55.2

家庭での学習時間は個人差があるが、全体の86%以上の児童が平日に 1 時間以上の家庭学習をしていて、全国とほぼ同じ傾向である。予習・復習については全国平均より10%程度上回っており、今後も家庭学習の質を高め、自分で計画的に意欲をもって家庭学習に取り組むようにしていきたい。

(2) 改善に向けての取組

【学校では】

- 家庭学習は低・中・高学年それぞれの目標時間を決まった場所で取り組むように指導しています。自主学習についても全校での取組を進め、発達段階に応じた指導をしています。
- 「生活パワーアップ週間」を利用して、その時々強化目標を設定し各学年、学級で工夫しながら指導しています。家庭とも連携できるよう、お便り等でお知らせをしています。

【ご家庭では】

- 「家庭学習の手引き」を参考に、自主的、計画的に学習できるように励ましたり、宿題に目を通したりしていただくと、学習への意欲を高めることができます。ご協力をお願いします。
- テレビを消す、学習する場所を決める等、お子さんが集中して家庭学習に取り組めるよう環境を整えてください。